

**IBM SPSS Data Access
Pack Linux 用インストール手
順**

IBM

目次

第 1 章 概要	1	Connect ODBC を使用したデータベースへの接続	6
紹介	1	エンド・ユーザーに必要な情報	6
データ・アクセス・テクノロジーのデプロイ	1		
ODBC データ・ソース	3		
第 2 章 Connect ODBC のインストール		索引	7
手順	5		
Connect ODBC の実行に必要な要件	5		
Connect ODBC のインストール手順	5		

第 1 章 概要

紹介

IBM® SPSS® 製品は、さまざまなファイル・タイプおよびデータベースのデータにアクセスするための一連のテクノロジーとともに配布されています。このガイドは、ネットワーク・コンピューター環境で使用するために IBM SPSS 製品をインストールし、エンド・ユーザーにリモート・サーバー上のデータベースへのアクセス権限を付与する必要があるシステム管理者に向けて主に記述されています。

IBM SPSS Data Access Pack は、DataDirect Connect and ConnectXE for ODBC をデプロイします。これには、ODBC を使用してすべての主要なデータ・ストア (リレーショナル・データベースからフラット・ファイルまで) に対する信頼性の高い接続を実現する、個別のデータベース固有のドライバーの包括的なセットが用意されています。

注: これらのデータ・アクセス・テクノロジーは、「閉じて」います。つまり、これらのテクノロジーは、IBM SPSS 製品でのみ使用できます。他のアプリケーションでデータベースにアクセスする場合は、より一般的なソリューションが必要になることがあります。

データ・アクセス・テクノロジーのデプロイ

Connect ODBC。管理者またはエンド・ユーザーが、該当する Connect ODBC ドライバーをインストールできます。(Connect ODBC にはサーバー・コンポーネントはありません。)ドライバーは、データにアクセスするコンピューター (IBM SPSS サーバー製品が実行されるコンピューター、エンド・ユーザーのデスクトップ・コンピューター、またはその両方) にインストールする必要があります。

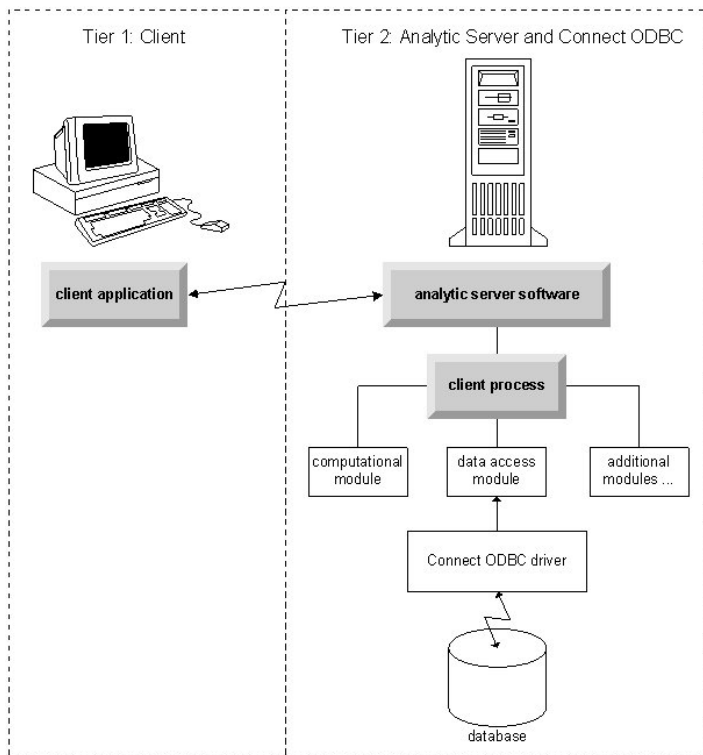


図 1. 分散分析モードでの Connect ODBC

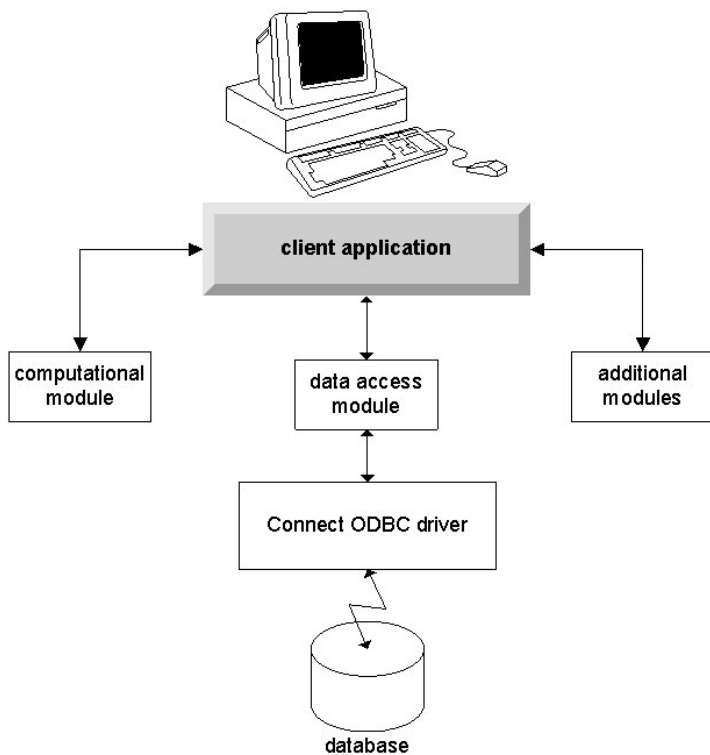


図 2. ローカル分析モードでの Connect ODBC

ODBC データ・ソース

Connect ODBC をインストールすると、1 つ以上の ODBC ドライバーがインストールされます。インストールされたドライバを使用する前に、そのドライバに対する ODBC データ・ソースを作成し、構成する必要があります。

ODBC データ・ソースは、データにアクセスするために使用される **ODBC ドライバー**、およびアクセス対象の**データベースの場所**という 2 つの必須情報から成ります。データベースは、いずれのネットワーク・コンピューターにも配置できます。ODBC ドライバーおよびデータ・ソースは、データをアクセスし、処理するコンピューターに配置する必要があります。使用する IBM SPSS アプリケーションのタイプに応じて、エンド・ユーザーのデスクトップ・コンピューターとリモート・サーバーのいずれかに配置できます。

デスクトップ製品用の ODBC データ・ソースの場所

ご使用の IBM SPSS 製品が、すべてのデータ・アクセスと処理がエンド・ユーザーのデスクトップ・コンピューターで発生する従来型の**デスクトップ・アプリケーション**である場合、ODBC データ・ソースはエンド・ユーザーのデスクトップ・コンピューターにインストールし、構成する必要があります。

分散アーキテクチャー製品用の ODBC データ・ソースの場所

ご使用の IBM SPSS 製品が**分散アーキテクチャー**を使用する場合、ODBC データ・ソースを配置する適切な場所は、製品の実行方法によって異なります。IBM SPSS 分散アーキテクチャー製品の構成は、リモート・サーバーのデータへのアクセスおよび処理を行うように (分散分析モード) することも、エンド・ユーザーのデスクトップ・コンピューターのデータへのアクセスおよび処理を行うように (ローカル分析モード) することもできます。

- **分散分析モードでの作業。**ODBC データ・ソースは、リモート・サーバーにインストールし、構成する必要があります。このデータ・ソースは、管理者がサーバーにインストールした ODBC ドライバー (Connect ODBC) を使用して作成されます。
- **ローカル分析モードでの作業。**ODBC データ・ソースは、エンド・ユーザーのデスクトップ・コンピューターにインストールし、構成する必要があります。このデータ・ソースは、デスクトップ・コンピューターにインストールされている ODBC ドライバーを使用してエンド・ユーザーが作成するか、管理者が作成したソースからインポートされます。
- **両方のモードでの作業。**エンド・ユーザーが、両方のモードでデータベースのデータにアクセスする必要がある場合、ODBC データ・ソースは、リモート・サーバーとデスクトップ・コンピューターの両方でインストールおよび構成する必要があります。

第 2 章 Connect ODBC のインストール手順

この章では、サイトへの Connect ODBC のインストール、およびデータベースへの接続について詳しく説明します。

Connect ODBC の実行に必要な要件

コンピューターが、インストールするドライバーのソフトウェア要件を満たしていることを確認します。

- ご使用のアプリケーションが 32 ビットのシステム・ライブラリーでビルドされている場合は、32 ビットのドライバーを使用する必要があります。ご使用のアプリケーションが 64 ビットのシステム・ライブラリーでビルドされている場合は、64 ビットのドライバーを使用する必要があります。
- DataDirect Connect ODBC または Connect XE for ODBC を使用するとき、接続するデータベースは 32 ビット対応または 64 ビット対応のどちらでもかまいません。

特定のドライバーに追加ソフトウェアが必要かどうかを判別するには、DataDirect のホーム・ページ (<http://www.datadirect.com>) を参照してください。

Connect ODBC のインストール手順

Connect ODBC はドライバーのセットで構成されていて、データ・ソースを作成するコンピューターにインストールする必要があります。場所は、インストールする IBM SPSS 製品のタイプ、およびその使用方法によって異なります。詳しくは、トピック 1 ページの『データ・アクセス・テクノロジーのデプロイ』を参照してください。IBM SPSS Data Access Pack を、別の IBM SPSS 製品と同じディレクトリーにインストールしないでください。

サポートされるすべてのオペレーティング・システム用のドライバーは、IBM SPSS 製品に付属の eAssembly から入手できます。これらは、別個の DVD/CD から入手できます。

注: Connect ODBC ドライバーをインストールするためには、root として実行している必要があります。

ドライバーのインストール

1. 次のコマンドを実行することでインストーラーを実行します。

```
./<installer_name>
```

ここで、<installer_name> はインストーラーの .bin ファイルです。

2. 画面に表示される説明に従います。ターゲットの場所を必ず書き留めてください。インストーラーが終了した後で、この場所にナビゲートする必要があります。
3. インストーラーが終了したら、インストール中に指定したターゲットの場所にナビゲートします。
4. IBM SPSS Data Access Pack 用のファイルを圧縮解除します。
5. tar ファイルを解凍します。これにより、ODBC ドライバーを実行するために必要なすべてのファイルが抽出されます。

重要: tar ファイルは、現在のマシン上の IBM SPSS Data Access Pack で意図されているすべてのユーザーからアクセスできる場所に抽出する必要があります。

6. ODBC 環境を構成します。ファイルを抽出したディレクトリーで、`./setodbcpath.sh` を実行します。これにより、ODBC ホーム・ディレクトリーが現在のディレクトリーに設定されます。
7. IBM SPSS アプリケーションを起動するスクリプトから、`<Connect ODBC install dir>/odbc.sh` を実行する命令を追加します。

注: IBM SPSS Statisticsユーザーの場合、これを行うには、`statsenv.sh` (IBM SPSS Statistics がインストールされているディレクトリーの下に `bin` ディレクトリーにあります) を編集して、`MERANT_ENVIRONMENT_SCRIPT` の行を、`Connect ODBC` がインストールされているディレクトリーを指すように変更します。

DataDirect 製品資料

Connect ODBC 用の DataDirect の製品資料は、ファイルを抽出したディレクトリー下にあります。

注: 資料には、DataDirect のホーム・ページ (<http://www.datadirect.com>) からアクセスできます。

インストールの更新

IBM SPSS Data Access Pack から新しいバージョンのドライバーやクライアントをインストールしても、前のドライバーはアンインストールされません。そうではなく、新しくインストールしたソフトウェアが利用できるようになります。新しくインストールしたソフトウェアは手動で構成する必要があります。前のドライバーの構成は転送されません。前のバージョンのドライバーが正しく機能していてニーズを満たしている場合、新しいバージョンにアップグレードしないことをお勧めします。前はサポートされていなかったデータベースのサポートが必要になったとき、または機能強化が必要になったときのみ更新してください。

Connect ODBC を使用したデータベースへの接続

Connect ODBC は、ODBC ドライバーのセットであり、これをインストールすると、ドライバーがインストールされます。インストールされたドライバーを使用する前に、そのドライバーに対する ODBC データ・ソースを作成し、構成する必要があります。ODBC データ・ソースは、データにアクセスするコンピューター上に作成する必要があります。ODBC データ・ソースの作成場所について詳しくは、トピック 1 ページの『データ・アクセス・テクノロジーのデプロイ』を参照してください。使用可能な Connect ODBC ドライバーは、ODBC アドミニストレーターに表示すると IBM SPSS OEM というラベルが付けられています。ODBC データ・ソースの構成方法について詳しくは、「DataDirect Connect Series for ODBC User's Guide」(IBM SPSS Data Access Pack とともにインストールされる DataDirect 資料に付属) で、UNIX/Linux での製品の構成についてのセクションを参照してください。

重要: サーバー製品で使用されるデータ・ソースを作成する場合は、ユーザー・データ・ソースではなくシステム・データ・ソースを作成する必要があります。

システム管理者がいる場合、Connect ODBC の構成方法についてはその管理者に問い合わせてください。

エンド・ユーザーに必要な情報

IBM SPSS サーバー製品および分散分析モードについて、エンド・ユーザーは次の情報を把握する必要があります。

- サーバー製品で使用する、リモート・コンピューターで構成されている Connect ODBC データ・ソースの名前および説明。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[夕行]

データベースへの接続
Connect ODBC を使用 6

[ヤ行]

要件
Connect ODBC 5

C

Connect ODBC
紹介 1
データベースへの接続 6
デプロイの紹介 1
要件 5

O

ODBC データ・ソース
説明 3
ODBC データ・ソースの場所 3



Printed in Japan